寺の小坊主

あるお寺の小坊主が、小坊主が何人もいであったらしいですねぇ。いまで言えば、住職さんですか、大坊さんが、甘酒を造って、よく仏様にもあげたべし、自分たちも飲んだんでしょうと思いますけど、小坊主さんがたには飲ませなかったらしくて、その小坊主、飲みたくて飲みたくてどうにもならなくて、住職さんが出掛けた隙に、自分で飲んだそうです。んで、帰って来ばおこられると思って、お地蔵さんがいっぱいいるもんですから、お地蔵さんの口にみんな甘酒を塗っておいて、帰ってきたら「おめ、のんだべぇ」、こうおこられたけど「私は飲みませんよ。誰か、お地蔵さん飲んだんじゃないの」って。「みんな口さついてったべった」、と言ったそうです。「お地蔵さん飲むわけないべぇ」って。そう言ったとこで、小坊主が頭いいのかどんなんだかわかんないけど、お地蔵さんの後ろには穴が開いているんですよね。今も開いてらってねがな。それで、お地蔵さんをいきなり、そばの池にドンと投げたそうです。小坊主さんがおごってねぇ。したら、穴から水が入っていくでしょう。だから、クタクタクタクタって、水入っていったり出たりする拍子に、クタクタクタクタっていうでしょう。だから「ほれ、このように『喰た、喰た、喰た、喰た』って、言うでしょう」って。そういった話あるんだよぉ、て、孫婆さんが教えてくれたんですよ。私は子どもだから、それを本当にして喜んでいたものです。それで、とっぴんぱらりのちーやらぷー。

渡部あや（檜山　70歳）

〈解説〉

和尚と小僧のだまし合いの物語。一休さんの話で有名であるが、その類話である。愚かでけちな和尚が小僧の頓知にやられるというもので、各地に類話がある。『通観』には藤里町の話が採録されている。和尚があんこ餅を如来様に備えて、小僧たちに帰るまで食うなといって出かける。小僧たちはみんな食べてしまう。帰った和尚にとがめられると、如来様の口にあんこが付いているという。では如来様に聞いてみると言って如来様をたたくと「クワン」という。小僧は私が白状させると言って、如来様を池に落とすと「クタクタクタクタ」といっ

たという。似た話である。